

要旨

アイドル文化の消費と労働についての研究

本間凜子

「推し」という言葉は、アイドル文化から広がり、現在では使い手ごとに意味を変容させながら、ファンの自己表現や消費行動を裏付ける概念となっている。さらに、「推し」からの「認知」や「レス」は、ファンの承認欲求を満たす一方で、アイドル側には負担なものであるが、双方の利益のもとで成り立っている。

日本のアイドルファン層は、主に中高年の男性と若年女性に二極化しており、それぞれが異なる動機や価値観のもとでアイドルを消費している。特に、若年アイドルを対象とするアイドル文化には、性搾取の問題が潜んでおり、令和のアイドルブームと呼ばれるブームの課題を浮き彫りにしている。

アイドルという職業は、若さや私生活の制限を前提としており、収入や将来に対する不安定さを抱えながらも、やりがいという建前によって支えられている特殊な職業である。加えて、恋愛禁止ルールや事務所の営業戦略によって、アイドルが運営側に消費される構造が生まれ、アイドルはファンと運営の双方からの搾取の中で活動しているのが現状である。